

正田洋一

市議会レポート

第7号



三原市議会議員
正田洋一

“未来を考える”

“地域をもっと元気にする!”

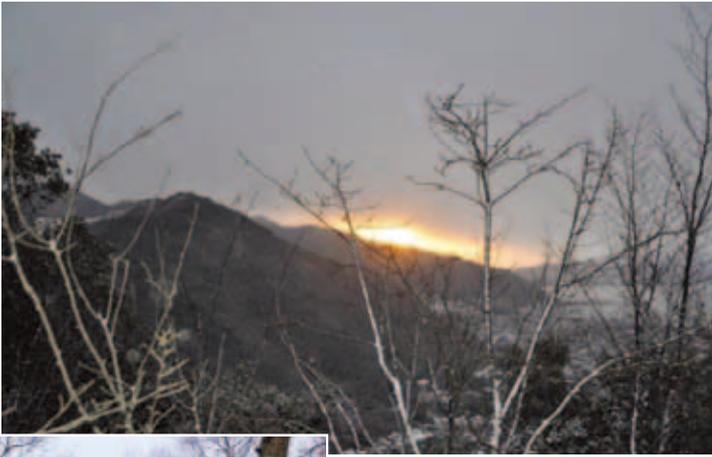
ご挨拶

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。法令遵守のため、賀状のご挨拶はご遠慮させていただきました。2月上旬のご挨拶となり、ご無礼いたします。今号で7回目の発行となります。主に12月議会の模様および日々の活動について報告致します。



桜山への初日の出登山

元旦に、桜山へ初日の出登山にいつてきました。1年のはじめは桜山からというのが、私の恒例の行事となっています。今年は、前日から雪模様のなか、白い幻想的な桜山を登ることができました。当日の天候状態から初日の出を見るのが難しいのではないかと思いましたが、奇跡的に日の出の数分間だけ見ることができました。初日の出を見なが



ら、頂上に集まった皆様と今年1年の飛躍を目指して万歳をしました。全力万歳、今年も何事にも全力で取り組んでいくと決意を新たにしました。



ら初日の出を見るのが難しいのではないかと思いましたが、奇跡的に日の出の数分間だけ見ることができました。初日の出を見なが

サイクリングで初詣

1月2日、この日も雪のなか、自転車で、大三島の大山祇神社へ行ってきました。雪のなかでのサイクリングは、かなりの荒行でした。この日も雪が降っており、ハードな運動と鍛錬になりました。



自転車漕ぎながら、向かい風では、一生懸命漕がなければ前に進まず、追い風の時は、楽をする仲間からどんどん差をつけられます。追い風の時こそ一生懸命漕がなくてはならないことがわかりました。何事も同じで、逆境でも好調でも一生懸命さを失うとおいでいかれるのだというのがわかりました。たいへん楽しかったです。ちよっとした達成感もありました。翌日ハードな筋肉痛に襲われたの言うまでもありません。

地域活動くおせち料理

三原市の各地で行われている行事で、私の住んでいる本町堀川町内会でも年末におせち料理の配布を行いました。毎年、配布係でいい役割をさせてもらい恐縮なのですが、これをたのしみにしていただいている方も多く地域活動の一環として、今後も続けて行きたい行事だと思えます。



一般質問

事業レビューについて

課題認識

市長が公約された「事業仕分け」は、いつのまにか「事業レビュー」へ変わっており、名前こそ似ていますが、全く当初の目的である財源を生み出す事業削減ではなくりました。端的に言えば、骨抜きで実施した事実のみをつくるためのものではないかと感じ、改善を促すため質問しました。いうまでもありませんが、財源には限りがあり、何か新しい施策に取り組むなら何かを削って生み出さなくてはなりません。無限ではないのです。また、行政経営とはそういうもので、地域を経営する市長はそこに一番の責任を負わなくてはなりません。

質問

市長は、「事業仕分け」を公約にしていたが、先日行われた「事業レビュー」は、当初の目的とは違うものだった。「事業レビュー」は、事業の削減にこだわらず業務を見直すということになっており、名前こそ似ているものの内容が骨抜きになっており、腑に落ちない。今後、ますます財源が厳しくなっていく状況から、社会変化や膨らんだ各種施策運営コストなどを削減する目的はどこにいったのか。事業レビューそのものを全て否定するものではないが、まずは事業仕分けにより財源を生み出すことからやり直したかどうか。

また、仕分け人についても聞く。一部の仕分け人に、事前学習もない人もいるが、そのような人なら必要ない。市民や議員が指摘できない高い専門性の部分や当事者では指摘できない知見を求めるため、外部人材は有効だが、その付近をどのように考えるか。

回答

事業レビューについては、事務事業の効率化や成果の向上を目指し、それを外部の視点で点検することとした。今回の指摘は、中長期的な視点での改善の指摘があったが、コスト削減につながる指摘がほとんどなく、3件にとどまった。今後はコスト削減の部分の目的が明確になるように制度設計の改善を図る。

仕分け人については、高度な知見を有する会議体で、各委員に個別に専門性の低い部分があったテーマもあったが、視点の多角化という意味で意義はあった。

再質問

予算削減に効果がなかったという認識は私も理事者も同じようだ。そこで提案だが、重大施策を対象にするのではなく、予算規模の大きい事業、優先順位の低い事業を対象にすべきではないか。今回はそれもその対象事業設定が、重大事業であり、対象設定からして削減の方向性が打ち出しにくかった。



今後は、目的をコスト削減とし、事業の見直しから財源を確保し、財政健全化、新たな投資に備えていくべきではないか。

回答

来年度も継続して実施したいと考えているが、指摘をもとに削減改善効果に力点をおき実施したい。また、「事業仕分け」と「事業レビュー」の併用も実施方法として考えていきたい。

総括

指摘という意味では、一定の効果あり。来年度の実施の中で制度設計にも意見をさせていた

きたいと思えます。また、実は市役所の現場も私とある程度、同様な認識をもっており、幹部が事業削減について腰が引けたというのが私の印象です。政策シンクタンク「構想日本」の方にもお会いし、来年度の制度設計についてアドバイスいただくとともに担当部門ともそのようなお話をさせていただいたと聞いています。

東館跡地活用について

課題認識

駅前東館跡地については、市長は就任以降、民間開発を迫及すると言いつつ続けてきました。しかしながら先日の議員向けの説明会で、東館跡地の開発は、公共施設の進出がない限り民間単独では難しいとの報告がありました。以前から民間単独開発の難しさを指摘し、公共民間複合施設としての庁舎機能の提案をしてきましたが、庁舎移転の可否という単純な議論にすりかえられ、駅前東館議論を先送りした結果、社会資本整備事業の事業費の増大をまねきました。市民を二分した、駅前東館論争は、一番大事なお金の部分が語られず、一番市民負担の多い整備方針への選択を迫られるという状況にあります。

質問

駅前東館跡地活用について、民間単独では開発がむずかしいという結論が出た中、三原市として今後どのように進めていくのかについて聞く。私は納得していないが、庁舎機能を含む駅前開発はしないと回答され、今議会には。現在地建て替えで、庁舎整備の予算が提案される。市長は就任1年7ヶ月にもなるが、駅前東館開発について、一向に方向性が見えない。先日の議員向けの説明では、3月にプランを、その後、プロポーザルを作成するというが、それは何度も聞いている。しかもどんどん後ろ倒しになっている、知りたいのはそんなことじゃない。具体的な提案とゴールの時期である。誰を呼び込むか

めに、いつ、何を作るのか、やるのかである。目標でもいいので時期を明示するべきだ。明示すれば、約束になる。また、庁舎整備含めて、駅前東館跡地に公共民間施設をつくるなら、公的負担が発生するのは確実で、結局、社会資本整備において、一番お金のかかるプランを選択することになる。市長は税源が厳しいから、駅前を民間にいわれたが、本末転倒だ。財源の見通しとその責任について聞く。



最後に、昨日の答弁のなかで、シティホテルの誘致が難しいのでビジネスホテルを誘致の可能性があるとのことだが、行政が一等地を民間に譲り地元の民業を圧迫するとはいかなるものか。

回答

東館跡地活用については、6月議会に調査業務に係わる予算の議決を受け、現在検討を進めている。地方都市においては、大規模な民間開発は困難であり、公共の関与によって開発が出来るのであれば、その方向性で検討すべきとの整理がされた。にぎわいの創出という観点から図書館などの公共施設整備も検討しているところだ。また、民間から提案があったが、建物の一部を市が借り受けるという手法についても総合的な検討を進めている。

財源的な見込みについては整理出来ていないが、国庫補助の活用など検討を進めたい。

具体的にスケジュールについては、基本方針を3月末までに整理し、業者決定に1年程度、工事に2年程度を要し、最短で3年後に完成すると見込まれるが、整理は出来ていない。

ビジネスホテル誘致の可能性については、ヒアリングの中で回答があったのみで検討している訳ではない。

再質問

庁舎機能の経緯については、知っている。議決されれば、自分が反対でも今後それを指摘することはない。ただ、財源見込みの判断できていない、出せないというの、どういうことか。過去からずっと指摘していることであり、お金がないのにやるのか。都合の悪いことを言わないようにしているだけだ。しつこいようだが、最後に市長に目標時期を語っていただきたい。あるかたの言葉を引用すれば「踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けばわかるさ」と言っている。



時期を設定して、追い込んで仕事をしてもらいたい。

回答

熱い思いは理解した。駅前が空白になっていることは気になっていて。私としては、民間事業者の開発意向をもとに、実現可能性を整理した上で、市民、議会に説明する。27年度中のプロポーザル実施を指して頑張るので理解をいただきたい。

総括

最後に市長に回答をいただきましたが、明確な回答を得られませんでした。天満節にごまかされた感もありますが、今後の展開についても同様の主張を展開したい。繰り返しになるが、長年続いた駅前東館論争は、一番お金のかかる市民負担のかかるプランを選択する状況にある。

車椅子自動車の軽自動車免税について

課題認識

車椅子移動の軽自動車について、他自治体は、構造免税措置があるのに三原市は、構造免税措置がない。また、県税である車椅子移動の普通自動車も構造免税措置があることから、来年度からの三原市も車椅子移動の軽自動車に構造免税措置を求めるものです。

質問

車椅子移動の軽自動車免税について聞く。車椅子移動の軽自動車免税措置を、社会福祉法人だけではなく株式会社等へも拡大していただきたい。すでに他自治体では、営利法人は構造免税の対象となっており、車椅子移動の普通自動車も構造免税の対象である。三原市ではその付近の対応が遅れており、条例改正等に対応いただきたいがどうか。



回答

軽自動車税の減免については、市町村の条例で定められるところにより減免ができることになっており、三原市は、社会福祉法人、社会福祉協議会などの公益減免と障がい者が自ら使用する障がい者減免しかない。構造減免については、来年度4月からの適用をめどに準備をすすめる。

総括

実現、来年度の実施となりました。事前にご相談をしておりましたが、早急に対応いただくことになってよかったですと思います。

三原市の観光を考える Part2

「正田洋一の思い」
Youichi Acolumn

誰に何をどうやって経済を活性化するか？

三原市を観光の街にという市長の強い思いのもと、観光資源の掘り起こし、イベントの企画や実施などが盛んに行われています。三原城築城450年の準備も着々と進んでおり、現在マスコミやキャクターの投票が進められています。しかしながら行政が取り組む観光にもやややしたものを感じています。

すべて批判するものではなく、それも大きなコンテンツとして理解しています。観光資源の掘り起こしとは、そもそも何のためにやるのか。私は、経済活性化のためにやるのであると思います。また、経済の活性化のためには何が必要なのか。それは、観光で来られた方が、楽しんでいただき、お金を使っていたいただき、また来て貰うということだと思います。

前回のコラムでも書きましたが、広島経済同友会の提案する鯉の城下町構想は、アジア地域から観光客にターゲットを定め、そのコンテンツに三原の産業資源である鯉、城跡や町並みとの調和を目指すものではないかと思えます。私は、城跡と桜山の親和性を考えていたとき、鯉の城下町構想と桜も親和性が高いのではないかと考えました。このようなアイデアの積み重ねで成り立つのではないかと思えます。一人の考えは小さなものですが、それを組み合わせ大きくして行かなければならないと思えました。

また、繰り返しになりますが、行政は、ターゲットを定め、担い手を徹底的に支援するべきだと思います。決して、東京の広告代理店に絵をかいて

もらうことではないと思えます。

市民を当事者にして、みんなで作り上げるべき、私も担い手としてやりたいと思えます。

洋「コラム

『中心市街地活性化と駅前開発のゆくえ』

今回の補正予算において、「反対」の立場をとりました。議会の発行する「議会だより」にも賛否の態度が掲載されておりあります。全ての議員のなかで反対の立場をとったのは私と寺田議員だけでした。寺田議員とは立場が違っているので省略しますが、私が反対をとった理由は、「庁舎の建て替えにおける調査予算の提案」があつたからです。これは、庁舎機能を現在地に建て替えることを認めることであり、到底承服できるものではありませんでした。

現在、庁舎整備に63億、駅前東館跡地にも民間を誘致するなら10数億以上の公的負担が想定され、災害対策等の事業費の拡大も見越すと、80億から100億に膨らむ社会資本整備費用が想定されます。私は、庁舎機能を駅前西館および東館に持つてきて、図書館、福祉会館、福祉センター、市民協働施設に民間施設（ホテル・ショッピング関連）を統合した案を主張してきました。移転に伴う、不要な資産（スクラップした建物・土地）は売却し財源を生み出し、三原駅前を中心に真のコンパクトシティのハブ（中心）を作るべきだと訴えてきました。しかし、力不足で申し訳ありません。実現することはできませんでした。市長は、一番コストが高いであろう現地建て替えの庁舎を提案し、議会もそれを議決しました。また、駅前開発も民間開発を行うなら一定程度の公的負担を強いられるのは確実です。過去の経緯で古い議員が賛成に回りきれなかつ

たことはあるにしても、なぜ新人の10人だけでも連携して、反対できなかったのだろう。また、過去とは、時代背景も情勢も変わっているのになぜ判断を替えられなかったのか残念に思います。私も反対したとはいえ、議決に加わった一人として重く責任を感じています。未来に大きなつげを残し、この判断が正しくなかったというのは、10年後にわかると思っています。本当に申し訳なく思います。

しかしながら、今後の議論を放棄するわけにはいきません。駅前東館跡地活用については、公共民間施設の設置なら、既存施設の徹底的なスクラップやソフト面で改善できる提案をしつかり考え、少しでも膨らむ社会資本整備の抑制と活性化のソフト提案を皆様の声を聞き、推進していきます。現在、知の拠点構想を考えておりますが、実現性や関係団体との協議もしております。実現可否は未知数ですが、可能となればどこかで披露したいと思えます。他の案についても様々な側面から創造し、一つでも活性化に寄与する提案をしたいと思えます。

編集後記

相変わらず文章過多のレポートとなつてしまいましたが、お許しください。今号で7号目、他の議員さんも発行される方が増えました。よい相乗効果として、日々市政を身近なものにしていきたいと思えます。1月から駅前東館の特別委員会も設置されます。もちろん議会だけで決められるものではありませんが、しっかりと議論したいと思えますので、ご意見等お寄せください。